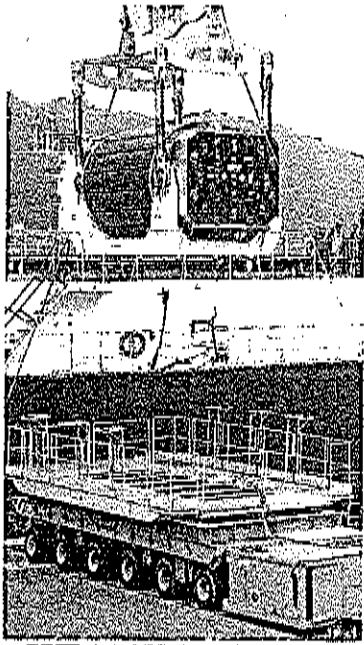


# 高浜原発MOX搬入 16仏から

高浜町の関西電力高浜原発に二十二日、プルトリウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料が輸送船で到着し、十六体を構内に運び入れた。二〇一一年の東京電力福島第一原発事故後、高浜原発への搬入は二年連続四回目。通算では五回目。

MOX燃料は使用済み核燃料から取り出したプルトリウムをウランと混ぜて再



関電高浜原発に搬入されるMOX燃料が入った輸送容器=22日、高浜町で

利用する「プルサーマル発電」で使う。今回搬入した十六体は高浜3号機用で、フランスの原子力大手オラノ社が製造。輸送船は九月にフランスを出発し、高浜原発に二十二日朝に到着した後、午後から燃料を構内に輸送した。

高浜原発構内のMOX燃料は、高浜3、4号機の合計で八十体となった。原子

炉内には計二十体あり、計四十四体が使用済みとなっている。

県内外の人たちが参加する市民団体「老朽原発うごかすな！実行委員会」は、約二十人がMOX燃料の搬入に合わせ、高浜原発周辺で抗議の声を上げた。京都市の木原壮林さん(モリス)は、高浜3、4号機ともに直近の運転再開がトラブルで予定より遅れたことを踏まえ「MOX燃料は使用後に熱が下がりにくく危険だ。トラブルが続いている原発に普通の燃料より危険なMOX燃料を運び込むなんてとんでもない」と憤った。

(浅井貴司)